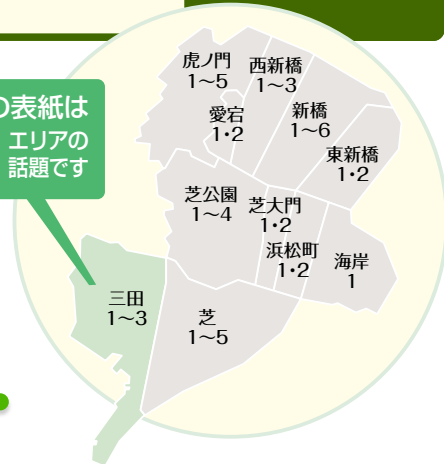


平成24年
2月20日発行

『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

港区保護樹林に指定されている

綱町三井倶楽部

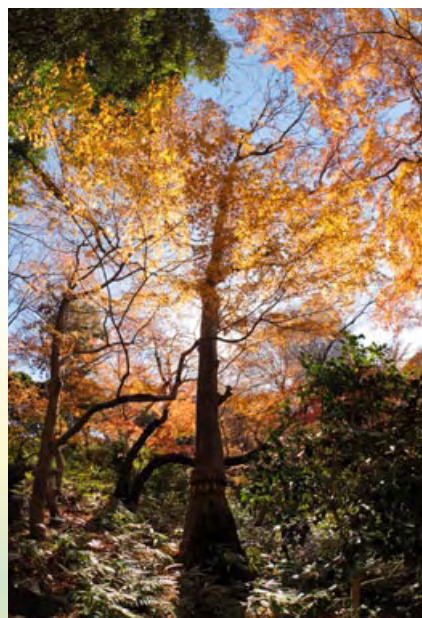
第22号の表紙は
三田
エリアの
話題です三田のまちに
豊かな緑を残す…

スダジイ、シラカシ、アカマツ、イチヨウ、サクラなど、豊かな樹木に囲まれた綱町三井倶楽部。敷地内に広がる樹林は約30,000m²にもわたり、昭和49年(1974)に港区の保護樹林に指定され、芝地区の緑化に貢献しています。樹木は季節ごとに職人が剪定し、日頃の手入れは施設内の社員が行いながら、この広大な樹林を維持・管理しているそうです。

大正2年(1913)に建てられた本館には、木々の緑や紅葉が映え、正門前の通りからもその景観を季節ごとに楽しむことができます。正門の横にある大イチヨウも見事なたたずまいを見せています。

この辺りは、都会の喧騒を忘れさせる静かな町並みが広がっていて、閑静な散歩道として、地域の人々にも親しまれています。皆さんも木々を見て季節を感じながら、のんびりと散歩してみませんか。

敷地の東側の坂からは柵越しに
庭園内をかいま見ることができる



許可を得て庭園内の色づいた樹木を撮影
(撮影日:2011年12月26日)

敷地の西側に見る保護樹林(綱坂側)

info

綱町三井倶楽部
三田2-3-7

※一般公開はされていません。

東京タワーを
撮り続けた
父

三田2丁目で写真店を営んでいる田島みどりさんから、昭和54年(1979)62歳で亡くなられたお父様の松永寿郎さんのお話をお聞きました。

写真店をこの地で開業

学生の頃からカメラが趣味だった父は戦時中も戦地で写真を撮っていたようですが、戦後ジャワから帰国すると、写真工房に入り本格的に腕を磨きました。その技術を活かし、昭和23年(1948)結婚と同時に現在地に写真店を開業しました。様々な外国製のカメラを使ってきましたが、「やはり、日本製のカメラが一番!」ということで、日本製カメラにこだわりました。写真屋ですから、「現像・焼き付け、引き伸ばし」が本業ですが、カメラの販売もしていたため、お客様にはカメラの使用方法を親切・丁寧に教えていました。本業より、そのほうが好きだったようです。

突然、町が変わる

赤羽橋から飯倉・芝公園辺りは、父の子どもの頃の遊び場だったようです。昭和32年(1957)頃、その飯倉から芝公園で工事が始まり、なにやら鉄骨がたくさん運ばれてきました。塔ができるらしい、とのこと。ちょうど自分の店から建設中の様子が見えるため、「これを撮り続けよう」と決め、撮影を始めました。工事は順調に進み、上空を突きぬける「タワー」

らしい建築物ができてきました。東京タワーです。写真①は、高台にある「春日神社」の境内から撮影した建設中の東京タワーです(昭和33年秋頃)。三田国際ビルもない頃で、屋根越しに東京タワーがくっきり見えます。

建設中の東京タワーに上り撮影

店の近くに東京タワー建設に携わる人たちの宿舎がありました。父は、塗装職人と仲良くなり「建設中の東京タワーに上って、皆さんの写真を撮りたいのですが」と頼みました。返事はOK(現在では考えられませんが)。完成直前の昭和33年(1958)12月3日、確か現在の特別展望台(地上250m)近くに上り、そこで働く人々を撮影しました。その時は、無我夢中で怖さを感じなかったようですが、帰宅した父の足がガタガタと震えていたのを覚えています。

当時20歳だった新潟出身の職人さんが、父が差し上げた記念写真を携えて、40数年ぶりに店を訪ねて来た時には驚きました。その職人さんは、「この1枚の写真は私の宝物です。世界一の塔を塗装したことは自分の誇りです」と嬉しそうに話していました。

写真は、歴史の証人です

写真②は、前述の昭和33年12月3日、地上250m付近から東側を撮った写真です。かつての国鉄「汐留駅」が見えます。ほぼ中央に赤レンガ建の日本赤十字社本社、右下隅の港区役所の旧庁舎等々、懐かしい写真です。家並みもわかります。

古い写真を見てみると、当時の人々の暮らしが見えてきます。建物の一つひとつが語りかけられます。みんなで写真を見ながら、「ワイワイガヤガヤ」と楽しむのもいいでしょう。1枚の写真が、心を和ませてくれます。 (文■清田 和美)



写真①



写真②

写真撮影: 松永寿郎(提供: フォトサービス・マツナガ)

info

フォトサービス・マツナガ
三田2-7-9 サニークレスト三田1F
TEL 03-3451-2575

ボツワナ共和国大使館

訪問記

アフリカ大陸の国々は、第2次世界大戦後次々に独立を果たしたこともあり、名前と場所が必ずしも一致しないという方も多いのではないのでしょうか？

芝4丁目にあるボツワナ共和国大使館で、ボツワナはどんな国なのか、プレ・ンボツウェ公使にお話を伺いました。



プレ・ンボツウェ公使

ボツワナの国旗について

水色は水を表しており、砂漠の面積が多いボツワナでは水は日本で想像する以上に貴重(水はツワナ語で「恵み」の意味もある)。黒と白のストライプは多文化国家なので、人種の共存を表しているとのこと。

歴史をざっと振り返ると

- 1885年、オランダからアフリカに移住したボーア人と呼ばれる人や、ドイツなどの侵略の脅威からイギリス政府に保護を求め、「ベチウワナランド保護領」となる
- 1966年9月30日、イギリスから平和的に独立。ボツワナ共和国誕生
- 1967年、ダイヤモンドが発見される

政治の背景

ボツワナには「コトラ」という、地域社会において意見の一致を図る伝統的な法廷議会があり、これが民主政治の基礎になっているそうです。

複数政党制で18歳以上の男女に普通選挙権があり、1965年以来5年ごとに国政選挙が行われています。現在の第4代大統領イアン・カーマ氏は、2010年秋に日本を訪問しています。

国造りは「話し合い」が原則

コトラにおいて実践されてきた「話し合い」の精神により、ダイヤモンドが発見されたときも、どこで産出されたかに関わらず、国民全体の財産であるという総意がなされました。これが現在のボツワナの平和の基盤になっているというプレ氏の説明に自負を感じました。

初代大統領セツエ・カーマ卿はダイヤモンドの収益を「社会基盤整備」と「人材育成」に力を入れると決め、それを実行しました。ボツワナでは教育は無料で、医療費も助成されています。

注：現在ダイヤの取引額において世界一のダイヤモンド生産国。世界の宝飾ダイヤの3分の1はボツワナ産(データ提供:ボツワナ共和国大使館)

オカバンゴ湿地帯やチョベ国立公園など観光の魅力もいっぱい

オカバンゴ湿地帯は世界最大の内陸デルタです。チョベ国立公園は野生の象の生息数が世界で、ビッグファイブ(ライオン・ヒョウ・サイ・バッファロー・ゾウ)など野生動物の楽園として観光客に人気があります。動物が自由に生きる姿を間近で見ることができます。動物たちが子どもを愛情深く育てている様子は感動的です。



チョベ国立公園の象の群れ(大使館提供)

アフリカの優等生

過去10年にわたり、国際的な格付け会社ムー

ディーズとスタンダード&プアーズは、ボツワナの投資信用格付けをAランクとしていました。ボツワナの政治的安定と堅実な経済運営が評価された結果で、現在はA2に格付けされています。

ボツワナの外貨準備高は、2011年9月時点で83億米ドル。1人当たりのGDPは6,900米ドルに上り、サハラ以南のアフリカ諸国の中で最高水準です。こうした良好な経済指標から、ボツワナは中所得国に位置付けられています。

優等生と言われる国造りを進めているにも関わらず、日本でのボツワナ共和国の認知度は残念ながらあまり高くありません。この状況をプラエンテ・ケノシ ボツワナ大使は「sleeping baby=すやすや眠っている赤ちゃん」と表現しました。1966年に独立して以来、世界でニュースになるような紛争や飢饉もなく、まだ非常に若い国というイメージがよく伝わってきます。これからますます成長されることを楽しみにしています。

基本的な情報

アフリカ大陸南部の内陸に位置する。

国土：58万2,000平方キロメートル(日本の1.5倍)

人口：200万人(2011年調べ)

言語：英語(公用語)、ツワナ語(国語)

民族：ツワナのほか、カラング、バサルワ、ヘレロ族など

首都：ハボローネ
気候：乾燥気候帯に属する。南半球にあるため、日本と夏・冬が反対になる
通貨：ブラ(1ブラ≒10.3円 2011年11月現在)



(文・写真 ■ 伊藤 泰子)

ボツワナ共和国大使館
芝4-5-10 カーニー・プレイス芝6F
TEL 03-5440-5676

～被災地の子どもたちを招待したハンガリー～



日本との「絆」プロジェクト



をレポート

東日本大震災の被害の状況を伝える映像が世界に流れ、各国の人々から温かい支援の手が差し伸べられました。そのひとつ、ハンガリーのプロジェクトが若者の心に希望と励ましの種をまいたという話題を紹介します。(これは昨年12月5日、三田2丁目にある同大使館で行われた記者会見の取材レポートです)

きっかけは

平成22年(2010)「日本・ハンガリー友好親善さくらの記念植樹式典」が福島県猪苗代町と岩手県陸前高田市・大船渡市で開催され、地元の人たちも参加しました。それが縁となり、震災後、この時関係したハンガリーの自治体から「被災した子どもたちを2週間ハンガリーに招待したい」という知らせが届きました。これに岩手県と福島県の中・高生18名が応募し、7月下旬に日本を出発しました。

当時の東北の状況を考えて、このプロジェクトが実現したことはハンガリーの方々のご尽力のおかげで、実際ハンガリーからの申し出はヨーロッパ諸国でも一番の早さでした。

子どもたちの貴重な体験

ハンガリーでは多くのボランティアに支えられて観光し、人々の温かさにふれ、大統領や首相への表敬訪問も果たしました。

子どもたちの会見スピーチでは「ハンガリーの

文化や暮らしに新鮮なカルチャーショックを受けた」ことが語られ、あるおばあさんから「3・11のニュースを見て、日本のために祈りました」と言われたことにも感動したそうです。

「次にチャンスがあったら今度は、ハンガリーのお友達においしいおにぎりを食べてもらえように、いま練習している」というほほえましい話や、ハンガリーの人々が飛行機が飛び立つまで見送つ



大使館に集まった子どもたちの集合写真(記者会見場にて)

ハンガリー新大使の 着任ランチパーティ



昨年10月24日、新しくハンガリー駐日大使となったセルダヘイ・イシュトヴァーン大使の着任パーティが開かれました。このパーティは10月23日がハンガリー革命(1956年)の記念日であることにちなんで開催されたパーティでもあります。

新大使は元ブダペスト大学の日本学教授で神戸大学に留学経験があり、大使夫人は日本人です。長身でハンサムな新大使は、日本語が堪能なうえに気さくな印象で、2階の会場で出席者をにこやかに出迎えてくれました。

ハンガリー大使館が今までに築いてきた交友の広さを感じたのは、パーティに集まった方たちのバラエティの豊かさでした。経団連会長の米倉弘昌氏をはじめ、政治・経済関係者だけでなく、英字新聞社、オー

ストリア・ハンガリー帝国の外交官ハインリヒ・クーデンホーフ・カレルギー伯爵と結婚した青山ミツコさんの孫にあたる画家のミハイル・クーデンホーフ・カレルギーご夫妻も来場されていました。またハンガリー刺繍の先生、お人形作りのグループの女性たちも参加され、国家間レベルの関係だけでなく、草の根の交流も大切にされていることがうかがえました。

大使館の料理長モルドヴァーン・ヴィクトル氏が腕をふるったハンガリー料理は見た目も美しく、色々な種類を数多く食べられるように工夫されたものでした。なんとなく食べ慣れた味がして、日本人の舌に合うという声も聞かれました。

料理を味わうにつれて、人々の緊張感もほぐれ、あちこちで談笑する人の輪が



てくれたことを「日本人と同じく情が厚い」と語る子どももいました。

絆は成長する

ある日突然災害に襲われ、つらい生活を強いられ、不安な日々を送っていた子どもたちにとって、ハンガリーでの2週間の体験は一生忘れられないうれしいものだったに違いありません。感受性の強い時期に「絆」によってまかれた種は、成長してその後の人生に計り知れない影響を与えるでしょう。それはこのプロジェクトを実現させるために寄与した多くの人々の想像をはるかに超えるものかもしれません…。

(文・写真 ■ 伊藤 泰子)

ハンガリー大使館
三田2-17-14
TEL 03-3798-8801



当日いただいたハンガリー料理の1つ(リブプリカの肉詰め)

見られました。このパーティでは大使とお会いするだけでなく、出席者同士の交流もありました。人との出会いと交流の大切さを思った1日でした。

(文・写真 ■ 伊藤 泰子)

芝の食文化

香り深い風味と 歯ごたえが 心地よい副菜

日本各地で栽培され、1年中食べられるだいこんは、多くの人から好まれている、家庭の食卓には欠かせない食材です。

東京だいこんといえば、かつては春・夏に収穫された亀戸大根、三河島大根、汐入り大根(南千住)、そして何といっても味が一番といわれた

だいこん漬

冬の練馬大根が代表格です。

5代將軍徳川綱吉が尾張から宮重(ミヘ)大根の種子を取り寄せ、武州豊島郡の農民たちに作らせたのが始まりで、昭和まで受け継がれた東京の名産です。軒下や庭先に並べて干している光景は冬の風物詩であったのが懐かしく思います。俳句でも冬の季語に詠まれます。

天明年間(1781~89)には多くの品種が生まれて、『大根一式料理秘密

(上から順に東京名産に選ばれる
福神漬、江古前皮付べたら漬、
東京沢庵、沢庵漬)



箱』や『大根料理秘伝抄』などだいこんの料理本が発行され、江戸の町民に好まれていたことがうかがえます。

新橋4丁目の赤レンガ通りに漬物専門店「十一屋総本店」があります。

飲食店が多く立ち並ぶ新橋という土地柄、近隣にお得意様が多いようです。その十一屋総本店の営業係長・大野亮店長にだいこん漬けの話をお聞きました。だいこんを使った

漬物だけでも10数種類揃えてありますが、冬はべったら漬けが主力商品となっているそうです。皮付きと皮なしの2種があり、コリコリとした歯ごたえに、麴の香りと自然な甘さが上品な味わいになっています。

東海寺(品川)の開祖、沢庵和尚が考案したので沢庵漬けと呼ばれたといわれていますが、ある日3代將軍徳川家光がこの寺で出された貯え漬けがことのほか気に入り、「沢庵漬けとしたらよい」との一声で決まったというのが有力な説です。当時は白米が江戸の町民に浸透し、精米して出た糠を漬物に利用した知恵に驚かされます。

十一屋総本店の沢庵漬けは「東京・沢庵」と呼び、練馬大根を小麦の糠であるふすまに漬けてウコンで染めています。やさしいみかん色には

んのりとした甘さが感じられます。

漬物は保存食ですが汁に漬けたまま冷蔵庫で保存すれば美味しさがキープできます」と大野店長のアドバイス。また「いろいろな野菜を塩で浅漬けにし、サラダ感覚で食べていただきたいですね。生野菜より栄養と風味があり、体にもとてもいいです」とも言われました。

また、店の正面には旬の野菜を漬けた期間限定品を出していて、今の時期は菜の花や春キャベツの漬物が春らしさを彩ります。

その他、珍しい漬物では、玉ネギを丸々1個使ったたまり漬け、エリンギのたまり漬け、グリーンが鮮やかでピリッと辛いザーサイの漬物、わさびの風味が後を引く長芋の漬物が目を引きます。

漬物は野菜を漬物液と香辛料に

伝統的な漬物を残しながらも、珍しい食材を使った研究開発に取り組んでいる大野店長



(写真：町田明夫)

漬けている間に発酵し、香りと風味がよいことから香の物とも呼ばれるようになった健康食品です。

(文 ■ 千葉 みな子)

(写真：町田明夫)



全国から仕入れたクオリティの高い漬物や味噌、調味料の種類の多さに驚く

参考文献：『日本の食文化大系 つけ物通』小川敏男著(東京書房社)

十一屋総本店
新橋4-5-15
TEL 03-3459-8500

ビルの屋上で『サツマイモの収穫』と『養蜂』 ～ヒートアイランド対策～



サツマイモで屋上350m²を緑化

アーバンネット三田ビルで行われている屋上緑化は水耕栽培システムを設置するもので、防水工事を施して土を敷き詰めるものに比べて大規模な工事をする必要がなく、軽量だということです。またサツマイモは葉が多く、春に苗を植えると夏には葉が重なり合うように屋上の表面を覆い、ビル表面温度の上昇を抑えることがわかりました。

昨年8月の観測によると、サツマイモの葉で覆われた部分の表面温度は26度～28度と1日を通して安定していたのに比べ、そうでない部分は最高55度と高温に達したそうです。照り返しを受けてビルが吸収した熱は、日が落ちた後に大気へ放出されるため、熱帯夜の原因になります。打ち水や緑のカーテンなど様々な取り組みが行われていますが、屋上緑化はまだあまり普及していないのが現状です。

ミツバチの飼育

平成18年(2006)に始まった屋上緑化はゴーヤやブドウなど新たな植物も加わり、平成22年(2010)から養蜂も始まりました。蜂蜜の採取に適したセイヨウミツバチ2群から開始し、平成23年(2011)は日本の在来種であるニホンミツバチを1群飼育しました。

ミツバチは採蜜する際に植物の受粉をうながすので、実のなる植物や周辺環境の種の保存に大きな役割を果たしています。果実に虫が集まると、虫

を食べる鳥も集まり、結果として生態系を維持すると考えられています。

また蜜が集まるだけの花があるかどうか、ミツバチは自然環境がどの程度ととのっているかを知るバロメーターにもなります。アーバンネット三田ビルの近くには三田台公園や竜塚公園があり、サクラやウメ、オオムラサキツツジ、サツキなど蜜源となる木々や植物が生息しています。周辺には寺院や学校もあり、街路樹などを合わせると意外に多く蜜源があることがわかります。

たのしい収穫祭

土の入った鉢にサツマイモのつるを入れたとその部分が膨らみ、3～4か月で収穫できるようになります。収穫にはテナントの社員も参加し、ビル内のレストランでケーキやスープなどに調理され、収穫パーティで蜂蜜とともにふるまわれました。平成22年はミツバチの巣箱2箱から約5.5kgの蜂蜜が採取され、時期によって色や味が違うものの、雑味のないスッパリとした甘さだそうです。収穫後のサツマイモの枯れ葉や茎は有機肥料として再生し、次の年の栽培に利用する予定です。冬の間は屋上の表面は何もない状態に戻り、ミツバチは越冬のための栄養補給をしながら春が来るのを待ちます。

災害時に大事な地域との交流

サツマイモの苗植え、つる入れや、収穫パーティなど年間を通して多彩なイベントが催されるように



東京芸術大学の学生もミツバチの飼育を体験しました



セイヨウミツバチが集めたハチミツ



立派なサツマイモがたくさん採れました

なり、様々な交流が生まれています。学生たちが訪れて蜜巣を使ったキャンドル作りなどワークショップも開催されました。さらに近隣の自治会にミツバチの安全性や養蜂を行うことについて説明を行いました。

近隣地域との交流は、地震や災害が起こった際、協力して地域を守るためにおおいに役立ちます。そのため日頃から地域とオフィスビルがつながりを持つことの大切さが再認識されています。屋上緑化や養蜂は収穫の楽しみとともに副産物の多い取り組みとしてますます注目されることでしょう。

〔文 ■ 作田 宗子〕
(写真提供: NTT都市開発株式会社)

みなと保健所が 新庁舎に移転しました

区民が利用しやすく、親しみやすい、
質の良い保健所をめざして

2月6日、三田1丁目に新しいみなと保健所がオープンしました。これまで、生活衛生センター(六本木庁舎)、保健サービスセンター(赤坂坂庁舎・三田分室)と別々の場所で行っていたそれぞれの業務を、新保健所に統合し、連携して業務を行います。場所は都営大江戸線赤羽橋駅より徒歩5分。敷地面積約1,750m²、地上8階、地下1階の環境に配慮した建物。内装にフローリングや木のサッシを使用することにより、自然な雰囲気。東側・西側の壁面にはツタを育て、壁面緑化によって日射熱を緩和させる工夫がなされています。



みなと保健所新庁舎

建物は高い断熱性能と高気密性能を確保し、中央には太陽光によって暖められた空気の上昇気流を利用するソーラーチムニー^(※)を導入。夏は暖められた空気を排気し、冬は暖気を循環させ、建物の熱負荷を軽減させます。地中熱を利用した設備や、屋上には太陽光発電パネルを設置し、自然エネルギーの有効活用を図ります。また、屋上植栽の雨水利用やヒートアイランド現象対策など、さまざまな環境対策に取り組んでいます。防災対策としては、震災時の停電を考慮し、非常用発電装置は72時間の稼働時間を確保しています。

メインエントランスのある1階には、障害者が就労する喫茶・軽食コーナー(カフェフェリーチェ)を設置。2階には子ども家庭支援センターのほか、栄養指導室や休日歯科応急診療所を配置。3階には成人・乳幼児健診に関する部屋が並び、4階には保健サービス関連の事務室が配置されています。5階は生活衛生関係を中心に、6階はレントゲン室や検診室、7階は化学細菌など各種検査室が置かれています。最上階の8階は講演会や講習会の開催など多目的な空間として利用できます。

子ども家庭支援センターは2月13日から業務を開始。喫茶・軽食コーナーは3月1日から営業を開始します。新しい保健所に、気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。区民の健やかな生活を支える身近な保健所として、利用しやすい施設となることを期待しています。

〔文・写真 ■ 早川 由紀〕



開所記念式典。武井雅昭区長が地域の方々とともにテープカットを行いました



室内には木材がふんだんに使用されており、あたたかい雰囲気

※ソーラーチムニー：建物の中に煙突状の空気の通り道をつくり、太陽光によって暖められた空気の上昇気流を利用して、空気を循環させるシステム。

みなと保健所
三田1-4-10

生活衛生課(庶務係) TEL 03-6400-0041
生活衛生課(相談係) TEL 03-9400-0043
保健予防課(予防係) TEL 03-6400-0080
健康推進課(健康づくり係) TEL 03-6400-0083
* 新庁舎では直通電話となります。主な電話番号を掲載しました。

続・新橋にトンネルがあるって本当ですか？

※この記事は本誌第16号2ページにて同タイトルで掲載された記事の続編です。

環状第二号線道路は東京中心部を環状に通り、神田佐久間町から湾岸道路に至るまで計画されています。そのうち虎ノ門の外堀通りから第一京浜交差部までの約1.35kmの道路は、平成25年度(2014年3月)の完成を目指しています。環状第二号線のこの区間(虎ノ門～新橋)の東京都施行の整備は、新しい立体道路制度を適用する都市再開発事業(平成26年度竣工予定)と、さらに虎ノ門の外堀通

写真① 虎ノ門1丁目トンネル出入口



りから桜田通りを横切り、虎ノ門街区内でトンネルに入り(写真①)、第一京浜手前新橋方面ランプ出入口がありますが、築地方面に通過していく地下部道路と愛宕通りから第一京浜まで地域活用のための地上部道路の上下二段を形成する道路事業となっています。

この虎ノ門から新橋間の道路事業は、計画から64年余もかけ、地元コミュニティも参加し、また構想、規模においても世界の大都市の中心部でなされる類を見ない程の大事業でもあり、新橋、虎ノ門、いや東京都の将来も見据えて新しく出現する21世紀型の新道路、再開発事業でもあります。

東京都埋蔵文化財センターは、徳川第2代将軍 秀忠によって天下普請と云われる市街地整備のために日比谷入江を埋め立てて(※1)武家屋敷になっっていたこの地区を調査し、その結果が「愛宕下遺跡1・II」としてまとめられ、さらに「Ⅲ」が刊行される予定です(※2)。もともと

東京タワーや愛宕山の地層は、縄文時代からの台地の地盤であり、江戸時代の埋め立て以前の虎ノ門、新橋地区の地層は入り江の海岸域の砂礫、粘土などであったようです(※3)。

この地層状況はトンネルの築造工事にも影響をしています。例えば、虎ノ門街区内に隣接した愛宕通り下に、トンネル内を浄化する換気施設が地下に併設されるために、地表より深度が25mにも達しますが、その下にはしっかりした岩盤があります。他方、西新橋、日比谷通り、第一京浜の方に進むと、



写真② 都営浅草線表示



写真③ 消火設備用場所の工事



写真④ 新橋方面ランプ出入口

武家屋敷跡の下地層は海であったことを示す貝殻などが出土しています。液状化を防止するためにその軟弱な地盤を改良し、その上に鉄筋コンクリートのトンネル部分を築造しています。

加えて、このトンネルは日比谷通りでは都営三田線と交差し、第一京浜では都営浅草線(写真②)と交差するために、いずれも地表から下の深度1.1m～7.5mにトンネル、その下に地下鉄と云う順番で建設されています。

トンネルの幅員は場所により20m～38m位あり、緊急避難所のあるところは構内にふくらみ、さらに側面に消火設備の設置場所、及び点

検用通路などが建設される予定です(写真③)。

現在、東京都第一建設事務所は虎ノ門街区の超高層建築棟の中にトンネル部分を築造しつつ、愛宕通りから日比谷通りまでトンネル築造工事を進め、日比谷通りから柳通りまでは順次、その先の新橋方面ランプ出入口部分(写真④)はすでに造り終え、さらなる第一京浜から汐留方面はトンネル部分の築造は完了しています。

平成25年度の完成、開通が待たれます。

〔文と写真② ■ 森 明〕

- ※1 鈴木 理生 江戸・東京の地理と地名 p7 日本実業出版社
 ※2 東京都再開発事務所 東京都第一建設事務所 環状第二号線新橋・虎ノ門地区 事業概要2011 p10
 ※3 鈴木 理生 前掲書 p4 東京都港区役所編 新修 港区史 p6

取材協力：
 東京都第一建設事務所
 環二工事課課長補佐 石川 響
 環二工事課工事係長 山田 栄一
 環二工事課環二工事事務所長 山本 康裕
 鎌高・大日本・アイザワ建設共同企業体
 監理技術者 今牧 修二
 環状第二号線(地下トンネル部)広報センター
 写真提供①③④：桑原 哲真 (文中敬称省略)

みなと子育て応援プラザ

Pokke (ぽっけ)

みなと子育て応援プラザPokke(ぽっけ)は、平成20年(2008)10月にオープンした会員登録制(登録料は無料)の子育て支援施設です。登録した皆さんが利用できる「子育てひろば」や保護者の事情に応じて子どもを預かる「一時預かり」「トワイライトステイ」「ショートステイ」(いずれも有料)を行っています(詳しくはお問い合わせください)。

現在、Pokkeの登録者数はおよそ5,000人。50名弱のスタッフとともにPokkeを支えているのは、多くの利用者の皆さんだといいます。Pokkeでは日々様々なイベントが行われていますが、その中には、保護者が自分たちの経験を活かし、自ら講師となって、エアロビクス、フラワーアレンジメント、フラダンスなどの講座を開くこともあるそうです。企画のアイデアをもらうこともあるとか。Pokkeのイベントは保護者の声が活かされているんですね。

Pokkeでの大きなイベントである夏祭りやアニバーサリー(周年記念)では、利用者だけでなく、地域の人々の協力も欠かせないものとなっています。近隣地域へ地道に参加を呼びかけたところ、予想していた以上に賛同いただき、地元の人々、民生委員、近隣の施設や企業の参加が実現したそうです。

大学生たちもいつもお手伝いに来てくれて、



楽しい企画を考えてくれます。また階上の都営住宅の住民の方と会食することもあり、多世代交流の場にもなっています。Pokkeは地域とのつながりを大事にしながら、お母さんやお父さんと協力して、子どもたちの成長を見守っています。



みなと子育て応援プラザ Pokke(ぽっけ)
 芝5-18-1-102
 TEL 03-6435-0411

Pokkeで教えてもらったレシピ♪

Pokkeでは、毎週木・金曜日12時～13時30分、14時～15時30分にカフェを開いています。当初は飲み物だけでしたが、デザートも始めるようになり、今では限定15食のランチもやっています。これ以外にも、ケーキカフェ、パパカフェ(コーヒー好きのお父さんがコーヒーをいれてくれます)なども開いています。

今回はこのカフェのスタッフから、味、食感、香りが楽しめるじゃがいもパンケーキの作り方を教えてもらいました。とても簡単なので、お子さんと一緒に作ることもできます。飲み物を添えておやつに、砂糖を少なめに朝食のパン代わりに…様々なアレンジが楽しめます。

じゃがいもパンケーキ

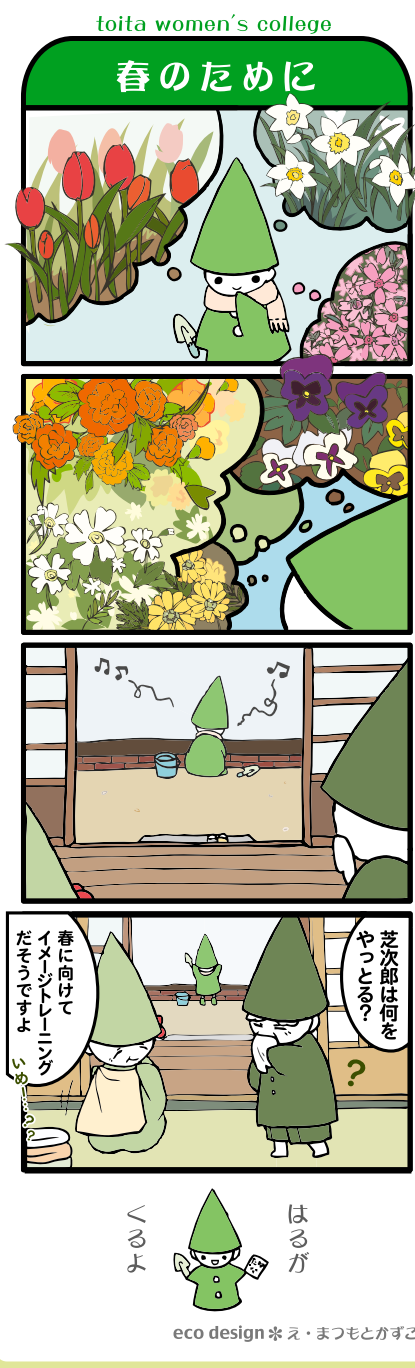


【材 料】
 (直径約10cm 10枚分)
 じゃがいも …… 200g(正味)
 「小麦粉 …… 200g
 A ベーキングパウダー …… 小さじ1
 「砂糖 …… 60g
 豆乳 …… 150ml
 サラダ油 …… 適量

【作り方】

- 1 Aをすべてボウルに入れ、泡立て器でよく混ぜ合わせる。
- 2 ①に皮をむいてすりおろしたじゃがいもと豆乳を加え、ダマがなくなるまで混ぜ合わせる。
- 3 フライパンにサラダ油を熱し、両面をそれぞれ1分くらい焼いてできあがり。

・ホイップクリームやメイプルシロップをかけてもおいしいです。
 ・小麦アレルギーのお子さんには小麦粉を米粉に、大豆アレルギーのお子さんには豆乳を水に替えてもできます！



本芝フェスタ2011 ～WE LOVE 東北～

昨年11月12日、本芝町会がJR田町駅前の本芝公園で「本芝フェスタ2011 ～WE LOVE 東北～」を開催しました。今回は、東日本大震災で被災した福島県いわき市の四倉地区の子どもたちを招待しました。青空の下、子どもたちは芝小学校シンフォニックプラスや東京女子学園吹奏楽部の演奏で歓迎を受けました。

その後、出店で焼きそばやおでんなどを食べ、ゲームを楽しみながら子どもたち同士も交流することができました。翌日も町会の人たちと一緒に東京タワーやNHKなどを見学。子どもたちはリフレッシュして福島に帰っていきました。



いわき市四倉の子どもたち45名。大漁旗をモチーフにしたおそろいの青いV字タナが素敵でした
(写真提供：福島県いわき市四倉支所)

よいこのつどい

1月9日成人の日に、芝西会主催・芝西応寺町会後援による「よいこのつどい」がみなと幼稚園前で開催されました。この行事は25年以上続いていて、成人の日の風物詩として、地域に愛されてきたものです。子どもたちは、大人からけん玉や羽根つき、ペーゴマなど昔の遊びを教してもらい、世代を超えたふれあいの中で、楽しい時間を過ごしました。

また大人たちが見守る中、小刀を使って竹とんぼや大根てっぽう作りに挑戦する子どももいました。みんなでついたお餅も好評でした。



竹とんぼや大根てっぽう作りは毎年大人気。おじいちゃん世代の腕は今も衰えていません。子どもたちも一日働けます。

福島県浪江町の陶芸家・山田さんと植木鉢作り！



受講者に指導する山田さん
(三田いきいきプラザにて)

せ植木鉢の形にします。鉢のまわりに印花(花・鳥などのスタンプ)で模様をつけて、作業終了。山田さんが子どもから高齢者まで簡単に作れるよう、作り方をアレンジしてくれました。

このあと10日程乾かし、窯で7～8時間焼き上げます。完成した植木鉢は土と球根を入れて、持ち帰る予定です。手作りの植木鉢にきれいな花が咲く日が楽しみです。

大堀相馬焼。この作品は二重焼といわれ、2重構造になっています。そのため熱いお茶をいれても外に熱が伝わりにくく、保温性もあります。



芝地区にある保育園・児童館・いきいきプラザ等、障害保健福祉センターで、陶芸教室を行いました。講師は、東日本大震災で被災し、東京に避難、現在芝公園児童館で「東日本大震災避難者・被災者臨時職員」として働いている福島県浪江町大堀の陶芸家・山田茂男さん。山田さんは大堀相馬焼の窯元で、被災されるまで浪江町で多くの作品を創っていました。

今回は、芝地区の人たちが山田さんと一緒に素焼きの植木鉢作りに挑戦しました。粘土をまるい板状にのびし、それを型にかぶ



35周年を迎えた芝落語会

芝落語会は、昭和51年地域落語会として芝の勤労福祉会館で旗揚げされてから、昨年で35周年を迎えました。

江戸時代にスポットをあてて「粋」「しゃれ」といった江戸っ子の心意気を愛し、あくまで素人の目線で落語を愉しみながら、地域の繋がりを深めることが最大の目的です。懇親会では、落語家さんや地域の方々とは語り合う喜びがあり、歴代の師匠方の素顔・芸談を聴けるという醍醐味もあります。

芝地区には明治後期、十六席もの寄席があり、芝を舞台とする落語も『芝浜』『首提灯』『井戸の茶碗』な

ど数多く知られています。そんな落語の宝庫である芝で活動してきた芝落語会の会長 西田高光さんから、35年を振り返って、思い出話をいくつかかかいました。

昭和52年の芝の落語名所めぐり

当時二つ目であった春風亭小朝さんと一緒に浴衣で芝界隈をめぐり、最後



西田会長
(「落語名所めぐり」にて)

昭和53年の新春特選落語会

芝浦協働会館にて三遊亭圓生・古今亭志ん朝・立川談志・三遊亭圓楽の師匠方を人力車でお迎え。客席の会

員はなんと全員和服姿でした。その粋としゃれに圓楽さんが、「今日の客は雰囲気が違うよ」と言われたそうです。

平成7年の長講「怪談牡丹燈籠」

三遊亭圓朝が眠る谷中の全生庵にて、三遊亭鳳楽さんの、寄席では聴けないような長時間(2時間余)の斬を愉しみました。

このほか、「歌舞伎と落語のあい」「長唄と落語のあい」「雅楽と落語のあい」など、さまざまな伝統芸能とのコラボレーションを試み、今後も能・狂言等との「であいシリーズ」を考えているそうです。これからも地域落語会として年6回の催しで活動を続けていく芝落語会。皆さんも落語を聴いて江戸の町に思いをはせてみませんか。



● 芝落語会の問い合わせ先 TEL 080-1331-1705 (西田)

芝地区まちづくり組織の活動

ホームページを開設しました。「環状2号線芝地区 環境・まちづくり協議会」の紹介や活動内容を掲載しています。また、『まちづくりニュース』もダウンロードできます。ぜひご覧ください。

<http://k2machikyo.com/>

芝地区地域情報誌・編集委員を募集しています！



芝地区の話題を発掘し、取材していただく地域情報誌・編集委員(記者)を募集します

- 【対象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人
- 【内容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)。発行予定ごとに平日の昼夜間に2時間程度の取材と、平日夜間に1回程度編集会議への参加があります。
- 【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送でお申し込みください。
- 【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
天津由理香／伊藤泰子／菊池弓可／清田和美／桑原庸嘉子／小知和千佳子／作田宗子／佐藤剛志／柴崎郁子／柴崎賢一／千葉みな子／張簡光輝／早川由紀／日尾佳世／町田明夫／森明

★今後の発行スケジュールは次の通りです。
H24.5.20発行(第23号)、H24.8.20発行(第24号)、H24.11.20発行(第25号)、H25.2.20発行(第26号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

平成24年度 港区民交通傷害保険に加入しましょう

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。

また、港区民交通傷害保険に、「自転車賠償責任プラン」を併せたコースも募集します。自転車を運転中に相手にケガをさせてしまった場合等が対象となります。概要のご案内となりますので、詳しくは各総合支所で配布するパンフレットまたは区のホームページをご覧ください。

※自転車賠償責任プランのみで加入することはできません。

加入対象者

平成24年4月1日午前0時時点で港区に住所がある人

保険期間

平成24年4月1日午前0時から平成25年3月31日午後12時までの1年間

加入方法

◎個人で加入される場合

各総合支所協働推進課協働推進係または区内金融機関(銀行、信用金庫、信用組合、ゆうちょ銀行・郵便局)で配布する加入申込書に記入のうえ、保険料を添えてお申し込みください。

◎10人以上の団体で加入される場合

各総合支所協働推進課協働推進係で、団体加入申込書に記入のうえ、人数分の保険料を添えてお申し込みください。

加入申込期間

2月1日(水)～3月30日(金)

※金融機関での申し込みは3月23日(金)までです。

※申込期間外の加入はできませんのでご注意ください。

コースの種類と保険料

図の6つのコースから1つのコースを選んでご加入ください。

※複数のコースへの加入はできません。

表 コースの種類と保険料

コース	補償内容	年額保険料	最高保険金額
A	区民交通傷害Aコース	800円	150万円
B	区民交通傷害Bコース	1,400円	350万円
C	区民交通傷害Cコース	2,600円	600万円
AJ	区民交通傷害Aコース+自転車賠償責任プラン	1,100円	150万円(交通傷害)+1,000万円(自転車賠償)
BJ	区民交通傷害Bコース+自転車賠償責任プラン	1,700円	350万円(交通傷害)+1,000万円(自転車賠償)
CJ	区民交通傷害Cコース+自転車賠償責任プラン	2,900円	600万円(交通傷害)+1,000万円(自転車賠償)

幹事引受保険会社

(株)損害保険ジャパン東京公務開発部営業開発課
新宿区西新宿1-26-1 TEL 03-3349-6018

問い合わせ先

芝地区総合支所協働推進課協働推進係 TEL 03-3578-3121

(SJ11-08990 平成23年12月19日作成)

「みなとコール」は暮らしの疑問にお答えします！



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。

年中無休／午前7時～午後11時

ゴヨウ(は)ナニ ミナト(コールです)

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

英語での対応もいたします。

振り込め詐欺撲滅運動推進中

ウチの電話は、直ちに110番！

携帯電話が変わった。

のどの調子が悪い。

株で失敗した。



これらは「振り込め詐欺」の騙し言葉のキーワードです。落ち着いて、よく考えて。すぐに110番!!

街とともに。人とともに。愛宕・三田警察署